

職場の声 二 題

「ゼロ災」に挑戦

昨日、三井病院に本所の職員が、現場に行く途中で、転んで二人来て、ある入院患者に対して「仕事は何もせんよけん、四にヒビが入って即入院じゃったげ五時間現場に出てくれん」と、説得して、半強制的に連れて帰った。

——どうしてな。

「Aさんが送電線で自転車に乗った。膝にヒビが入ってギブスに入らなるとな。重傷じゃった。それが違うとたい。会社は何日休んだかで負傷の程度が決まるとたい。二日間で微傷、三日以上軽傷、十四日以上が重傷たい。」

——そんな骨折しても二日目に出動するも負傷ゼロな。

「そういことたい。」

——ケガの程度は医師が決めると思とたら、そら大違い。出勤者が責任ではないの。労働者の責任ではないの。労働者が決めることな。労働者と資本家の責任です。私、その通り。それで、保安部あすの生活まで犠牲にするとは「ゼロ災」といいます。

なぜ合理化に 協力なの？

私たち三池炭鉱に働く労働者は、十分な賃金をもらっているとはとても思いません。妻や子供たちを働かせて、やっと生活を維持しているのではないのでしょうか。

——出さざるやな情勢のなかで、なぜ合理化の先取りをしなければならぬのでしょうか。なぜ労働者が協力せねばならぬのでしょうか。

「今のきびしい石炭情勢は私たち労働者の責任ではないの。労働者の責任ではないの。労働者が決めることな。労働者と資本家の責任です。私、その通り。それで、保安部あすの生活まで犠牲にするとは「ゼロ災」といいます。」

（三井分會新聞「やま」第十号に、「合理化に理解と協力を」と題する一文がありました。これと先、まだ会社は合理化を

三作の「分裂」とは

三月六日におこなわれた三池労働者の統一行事で、三井炭鉱の三井分會解散式で、代表あいさつした田中弘さん。二月二十九日に定年退職した森川さん。三井炭鉱の三井分會解散式で、代表あいさつした田中弘さん。二月二十九日に定年退職した森川さん。三井炭鉱の三井分會解散式で、代表あいさつした田中弘さん。二月二十九日に定年退職した森川さん。



28年余のたたかいを経てこの解散式を迎えた。はるばる東京からの参加もあった。(この日22人中11人と夫人10人が参加)

分裂に抗して闘った 二十二人の仲間たち

- 石田 義貴(神戸市西区井川谷 七五五九)
- 荒木 栄(故人・遺族は鳥栖市 元町一九二八の二)
- 運尾 朝男(故人・遺族は大牟田市 市久福八三五の五)
- 後藤 安男(大牟田市宮原町二丁目一五九)
- 荒武 正行(広島県府中市久佐町 九四二の一〇鶴田橋方)
- 田中 弘(大牟田市宮部二九四 四三の四七)
- 前原 正二(大牟田市歴木一八〇 七五九六)
- 川口 貞安(大牟田市馬込二丁目一四四)
- 東 伊津雄(三重県津市大門一八の二・大門鶴光内)
- 坂口 芳澄(故人・遺族は三池郡高田町上楠田二八〇)
- 中山 清水(大牟田市歴木一八〇 順不同・敬称略)
- 早瀬 朝徳(大牟田市歴木六六八 三三の五三八)
- 森川 義弘(大牟田市橋一四六七 久保田吾一(荒尾市新生西二二 班の五)
- 猿渡 一男(大牟田市歴木一八〇 七五二〇)
- 大城 三男(山門郡瀬高町下小川 団地)
- 宮丸 末春(荒尾市高浜一六二 田中 誠(三池郡高田町瀬施六 四三の四七)
- 上形 好人(荒尾市一訪区一〇班 松尾 勝己(大牟田市大字橋七三 六)
- 西田 正年(大阪府河内郡美原町 大盛一五八)
- 福岡 国光(大牟田市大字今山二 一四三の四)

大型間接税

反対行動にのり出す

法案提出阻止めざし 中小の製造・小売業者253団体

中小・零細の製造、小売業者、再度アンケートを実施して反対者団体を中心とする「大型間接税反対中小企業連絡会」は三月一日、東京の日専連会館で全国の幹部約百人を集めた会議を開き、焦点の新型間接税問題について、「法案提出阻止」を当面の目標に、具体的な反対行動に乗り出す方針を決めた。

「中小連絡会」は昨年、流通業界とともに売上税反対闘争の先頭に立ったが、今回は法案が示されない段階でもあり、内部の研究に重点を置いていた。しかし、政府が導入に向け業者へのしめつけなどを強めていることから危機感を深め、法案提出阻止の行動に踏み切った。

園田代表幹事はあいさつで、「これが一番の正念場だ」と訴え、法案提出前の「決起」をよびかけた。具体的には、①政府税制調査会の会長、委員への申し入れや懇談を行う、②与野党議員への働きかけとりわけ野党の結束力を注ぐ、③竹下首相をはじめ同日選挙で大型間接税反対を約束した自民党議員に公約の履行を求めることなど、

人物 ルポ

三作分会最後の退職者

森川 義弘 さん



三池労働者の統一行事に参加した森川さん(3月6日)

もならん」と、退職後も要請されて仕事を続けたことでもよくわかる。

もともと最後の四年間は、人員整理を含む合理化のあり方で、関係会社に出向させられた。

○「三井炭鉱で最後の三池労働者だった森川義弘さん(五十五歳)が二月二十九日定年退職を迎えた。

昭和二十二年四月の入社から勤続四十二年近くになる。その間、一貫して組み立て工として働き続けたが、その技術は第一級で「あんたがおりん」とう

「三井炭鉱で最後の三池労働者だった森川義弘さん(五十五歳)が二月二十九日定年退職を迎えた。昭和二十二年四月の入社から勤続四十二年近くになる。その間、一貫して組み立て工として働き続けたが、その技術は第一級で「あんたがおりん」とう

囲碁問題解答

